

梧溪叢書

大崎古城名

完

(18)

大南古藏書

大南古藏書

良定化文書

日本待好子進拔粹

日本新編...
身要...
大...
...

大峰嶺古城間敷城主名元記

加美郡性生寺村
...

一加味佐持 馬場村...
...

一島屋佐持 口村...
...

一小北山 口村...
...

一言指城 口村...
...

一山 味...
...

山 新 一 大橋城 口三十五 山 一 概把城 口十四 山 折込城 口三

谷地村

山 谷地城 口三十五 山 谷地城 口三十五 山 谷地城 口三十五

谷地村

山 谷地城 口三十五 山 谷地城 口三十五 山 谷地城 口三十五

谷地村

山 谷地城 口三十五 山 谷地城 口三十五 山 谷地城 口三十五

谷地村

山 谷地城 口三十五 山 谷地城 口三十五 山 谷地城 口三十五

谷地村

山 谷地城 口三十五 山 谷地城 口三十五 山 谷地城 口三十五

四尾村

山 四尾城 口三十五 山 四尾城 口三十五 山 四尾城 口三十五

四尾村

山 四尾城 口三十五 山 四尾城 口三十五 山 四尾城 口三十五

四尾村

山 四尾城 口三十五 山 四尾城 口三十五 山 四尾城 口三十五

四尾村

山 四尾城 口三十五 山 四尾城 口三十五 山 四尾城 口三十五

四尾村

山 四尾城 口三十五 山 四尾城 口三十五 山 四尾城 口三十五

四尾村

山名

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

上平山村

伏見村

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

新井田村

三丁目村

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

新井田村

三丁目村

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

新井田村

三丁目村

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

新井田村

三丁目村

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

新井田村

三丁目村

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

山名

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

一古塔山 山形西平太山 不削之木 高十丈 推于 其 山 前 出

半沢村

古多陽

一平津郡 古多陽 古多陽 古多陽 古多陽 古多陽

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

一古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡 古川郡

古川郡

上宮村

一 村山崎 四丁 村山崎 村山崎

一 白旗 四丁 村山崎 村山崎

一 白旗 四丁 村山崎 村山崎

梨法村

一 白旗 四丁 村山崎 村山崎

一 梨法 四丁 村山崎 村山崎

梓田村

一 梓田 四丁 村山崎 村山崎

一 梓田 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

湯村

一 湯 四丁 村山崎 村山崎

一 湯 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

八幡村

一 八幡 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

山 金井村

一 赤尾城 城之主 赤尾城

大赤木村

一 赤尾城 城之主 赤尾城

山 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

山 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

山 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

山 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

大赤木村

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

小迫村

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

山 如村

一 如村 城之主 如村

一 福子城 城之主 福子城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

山 有斐村

一 有斐城 城之主 有斐城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

山 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

一 赤尾城 城之主 赤尾城

大崎聚名元帳

大崎屋司

氏名三つ守時右
六右衛門左衛門

宿元

任本海内守時右
甲元新守時右

中村向城三代目藤下親時信成工物小左衛門
氏名藤下親時

玉隆新右衛門村敏
新右衛門村敏

加藤新四郎村敏
村敏

氏名藤下親時
氏名藤下親時

加藤新四郎村敏
今身由者 同村敏
氏名藤下親時

同身由者同村敏
石川長門守村敏
小北田守時

同身由者同村敏
氏名藤下親時
同身由者同村敏

同身由者同村敏
氏名藤下親時
氏名藤下親時

四米村館（五ノイ名） 仁木村館（五ノイ名）

四宅村館（四宅尾村館） 仁木村館（五ノイ名）

四葉村館（四葉尾村館） 甲久女長陸之

五區館（一葉村館） 五區館（二葉村館） 五區館（三葉村館） 五區館（四葉村館）

五區館（五葉村館） 五區館（六葉村館） 五區館（七葉村館） 五區館（八葉村館）

四野村館（四野尾村館） 四野村館（五野尾村館）

四上村館（四上尾村館） 四上村館（五上尾村館）

四下村館（四下尾村館） 四下村館（五下尾村館）

四中村館（四中尾村館） 四中村館（五中尾村館）

四左村館（四左尾村館） 四左村館（五左尾村館）

四右村館（四右尾村館） 四右村館（五右尾村館）

四前村館（四前尾村館） 四前村館（五前尾村館）

四後村館（四後尾村館） 四後村館（五後尾村館）

四東村館（四東尾村館） 四東村館（五東尾村館）

四西村館（四西尾村館） 四西村館（五西尾村館）

四南村館（四南尾村館） 四南村館（五南尾村館）

四北村館（四北尾村館） 四北村館（五北尾村館）

四村館（四村尾館） 四村館（五村尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

四館（四館尾館） 四館（五館尾館）

若西忠憲大夫精信讀水三進泉

重時、心守、雙葉傷る、小北、ち、道、或、入、乃、有、勢、或、交、小、北、ち、道、
二階、老、は、越、金、或、四、越、於、木、高、千、景、無、勢、尼、中、お、た、る、
千、景、無、勢、乃、夫、陸、我、推、乃、金、頭、大、和、は、女、能、也、切、對、可、
信、及、之、山、沼、之、或、乃、深、金、を、此、群、小、岩、就、入、年、

同是の頃 明治三十七年五月八日 家在在 大極 友 友 將 針 身 七 十 の 也

貞山孫河書家

い、せ、く、と、う、ら、ひ、に、甘、き、を、ま、の、あ、り、の、う、け、い、く、ち、か、し、を、十
ね、ま、ん、を、く、と、さ、く、あ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
と、北、ま、の、後、も、う、と、あ、い、る、を、ん、を、そ、い、ま、ま、く、の、あ、り
う、け、し、と、く、は、お、ま、り、い、ん、を、さ、ろ、し、と、く、と、あ、て、
の、あ、り、う、け、し、ち、あ、ま、り、と、ま、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、あ、く、す、く、い、ん、を、さ、ろ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、と、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
め、ら、う、く、く、し、い、ま、あ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

五月朔の夜 改定

良學院

有金...

天也... 年... 月... 日... 守... 松... 某... 記...
一、年... 之...
○... 年... 月... 日... 守... 松... 某... 記...

雲宗... 地... 花... 村... 之... 白... 并... 祈... 之... 祈... 會... 我... 指... 六... 費... 父... 志... 之... 記... 四... 卷...
雲宗... 地... 花... 村... 之... 白... 并... 祈... 之... 祈... 會... 我... 指... 六... 費... 父... 志... 之... 記... 四... 卷...

宣山... 年... 六月... 日...

宣山... 年... 六月... 日... 宣山... 年... 六月... 日...

一、延... 年... 六月... 日...

宣山... 年... 六月... 日... 宣山... 年... 六月... 日...

宣山... 年... 六月... 日... 宣山... 年... 六月... 日...

宣房八年寅日 竹多田

前鋒廣西
萬一武并
萬一武并
萬一武并
萬一武并

文政三年六月日 竹久白口

伊達家伯
二十志世
格原親臣
萬一武并

文政六年六月日 竹久白口

伊達家伯
二十八世
藤原親臣
萬一武并

天保十年八月日

伊達家伯
萬一武并

良寛伝記(列)日記

一 指二葉三右二移又 身赤髪 延花少右との

一 赤髪三右八移又 身赤髪 延花少右との

一 三右移又又 空城無事 済少との 一八右移又又 白髪少 延花少との

一 全右移又又 空城無事 済少との 一三右移又又 白髪少 延花少との

一 全右移又又 空城無事 済少との 一三右移又又 白髪少 延花少との

一 全右移又又 空城無事 済少との 一三右移又又 白髪少 延花少との

一 全右移又又 空城無事 済少との 一三右移又又 白髪少 延花少との

一 全右移又又 空城無事 済少との 一三右移又又 白髪少 延花少との

一 全右移又又 空城無事 済少との 一三右移又又 白髪少 延花少との

一 全右移又又 空城無事 済少との 一三右移又又 白髪少 延花少との

全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

一 全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

一 全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

一 全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

一 全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

一 全書要文

赤松氏

一 石田氏又 常田新島木抄

一 全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

一 全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

一 全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

一 全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

一 全書要文

寶曆八年七月

中河伊勢

紫田

古田

古田

古田

古田

大徳監物

大徳監物

大徳監物

大徳監物

平賀

平賀

平賀

依美仲

寶曆八年七月

古田

依美仲

泉田大彌

平賀元徳

古田種彦

後茂孫四郎

福永信成

石田豊前

平賀元徳

石田豊前

平賀元徳

後茂孫四郎

福永信成

石田豊前

平賀元徳

後茂孫四郎

福永信成

一 天保十三年六月日

石田豊前

平賀元徳

後茂孫四郎

福永信成

石田豊前

平賀元徳

石田豊前

平賀元徳

後茂孫四郎

福永信成

石田豊前

平賀元徳

一 天保十三年八月日

權大僧正

石田豊前

平賀元徳

後茂孫四郎

石田豊前

平賀元徳

後茂孫四郎

芝多利吉

前日

遠方

九月

五

大條照物

水前

筆跡

田

五

天曆十三年八月

本レノ色ニ列日録冬夏伊也三口一...
以事ナリ名元瓦空也刻と...
天曆十三年八月

上卿左衛門尉兼木

享和三年七月廿二日

宣旨

大僧都性真

宜轉任大僧都

奉

藏頭

表書

宣案

口

上御管中納言

嘉永二年三月廿六日宣旨

權大僧都諦真

宣轉任大僧都

藏奈辨若衛權經

石本宣

宣業

石二枚彦五七

權大僧都諦真

左少辨藤月朝胤保傳宣

權中納言管原月朝聰長宣奉

勅件人宜轉任大僧都者

奉

上布

嘉永五年丙辰月修

里

陳春長堂堂光泰規

奉

蘇中内言

大正

一 柱仔樓律... 可後... 律... 律...

一 柱仔樓律... 律...

一 柱仔樓律... 律...

一 柱仔樓律... 律...

一 柱仔樓律... 律...

文政五年十月...

坂下...

大正五年十月十日

海軍海軍部

海軍海軍部

仙卷

妙初院明真

一 杖任持少佐兼... 杖任持律... 杖任持律... 杖任持律...

法亦杖文
法亦杖文

仙卷

法服法良

一 杖叙法服... 杖叙法服... 杖叙法服... 杖叙法服...

一 杖叙法服... 杖叙法服... 杖叙法服... 杖叙法服...

大正六年十月十日

法印杖卷

良覺院

法印光有



一、奉住持... 二、山莊... 三、山莊...

正德元年七月廿九

法印濟甫



法印精林

良覺院印真

一、奉住持... 二、山莊... 三、山莊...

正德元年七月廿九

法印精林



法印精林



岩坊法印移居

良覺院佛堂

一春住持年者之年 指為言 識於內入學 似有初學之志 初
不識者 觀其志 志在何處 合與於識 先評早於上者 以
為百世師 其志與之 則言必為 節也 三山接後 宜其
光純正也 此併

寶曆十二年九月廿

法服琴香 丑

法服漆茶 丑

良覺院佛堂

一春住持年者之年 雖不為易 固若功 若其補全 無不詳而
右 幼志 何年 亦幼天下 亦年 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦
三山接後 宜其 光純正也 此併

云往嘉年七月二十

法印漆茶 丑

奧州仙臺

法印漆茶

良覺院佛堂

一朱仕仲學考：年時有紫雲如狀，先科記亦不字仲行
年名慎，初玉亦考卷，無前，名依三山務度官最
前紀正也科

法亦深定也

法服抄又

法服抄乙

天保三年三月十日

良芝院印

一朱仕仲學考：年時有紫雲如狀，先科記亦不字仲行
年名慎，初玉亦考卷，無前，名依三山務度官最
前紀正也科

天保七年七月廿五日

良芝院印

法印 祐 祐 祐

一朱仕仲學考：年時有紫雲如狀，先科記亦不字仲行
年名慎，初玉亦考卷，無前，名依三山務度官最
前紀正也科

三山務度官最前紀正也科

法亦深定也

天保六年三月廿七日

法亦深定也

法亦深定也

法華源乙

五

仙堂

良覺院明真

右山色

一本探色衣三年校先科院社上之公事係有善念故之袖
百公之乃氣多係 而後院空淨光色純正也為伴

嘉保十三年八月六日

法華源 花押

良之信

一本探色衣三年校先科院社上之公事係有善念故之袖
百公之乃氣多係 而後院空淨光色純正也為伴

法華源 花押

空房三年八月廿日

法華源 花押

法華源 花押

法華源 花押

法華源 花押

仙堂

良覺院明真

且一謂其色衣若用之半因是果 勸助社之件 云云也

百護院空淨光色純正也為伴

法華源 花押

法華源 花押

法華源 花押

文化十一年十二月七日

仙卷

良芝元化大信和性云

先一木蘭色衣著用一車杖 允科一三信 三山指故定少等七抱

蓮花伴

宋和三年六月吉

法平空若一卷

法平卷長 卷折云白

仙卷 良芝元化性云

一頭其色衣著用一車杖 允科一三信 三山指故定少等七抱

西和三年七月吉

法平卷長 卷折云白

仙卷 良芝元化大信和性云

仙卷

一頭其色衣著用一車杖 允科一三信 三山指故定少等七抱

三山指故定少等七抱

法平卷長 卷折云白

法平卷長 卷折云白

法平卷長 卷折云白

卷 卷 卷

仙卷

良芝元化

十八道護摩加行日折

大八道加行日折

前行 喚取一湯又

十月五日 卯在國与會前

十月九日 儀軌傳授

正行 三念誦

四月十五日 卯在國与會

四月十日 汝等傳授

護摩加行日折

誦誦 十八羅三時

四月十七日 卯在國与會

四月十八日 汝等傳授

口問護去諸非供儀之

同日諸尊法傳授

如右

大阿闍梨二思雄仁親王示

金剛佛子誦十二

萬壽元年十一月五日

釋迦次等

善學寺低執回汝等

光明汝等

葉師低執回汝等

單觀寺低執回汝等

十二面低執回汝等

如老神低執回汝等

千白低執回汝等

灌照汝等

白衣汝等

八字之舞低執回汝等

三尊聖障低執回汝等

善學寺低執回汝等

善學寺低執回汝等

地三所汝等

於樹次等

廣深低執 廣深寺受法 三宗同汝等

降三聖汝等

不動低執回汝等

軍荼利低執回汝等

五次尊舍行法

大成低執回汝等

金剛夜叉汝等

手刺寺低執回汝等

不知然宅法

孔雀汝等

毘沙門天低執回汝等

手刺寺主汝等

手刺寺主汝等

妙尼汝等

十二天汝等

二十天汝等

水天汝等

大夏天... 九... 九...

採... 全到...

如右

嘉永五年十一月二十九日



右... 抄入

良覺院

先取... 抄入... 抄入... 抄入...

十二月

修驗裁事



Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are small and densely packed.

文政二四年

傳於橋大信於法中白林 百六十六年 一傳於橋大信於法中百六十六年

傳於橋大信於法中百六十六年 一傳於橋大信於法中百六十六年

傳於橋大信於法中百六十六年 一傳於橋大信於法中百六十六年

傳於橋大信於法中百六十六年 一傳於橋大信於法中百六十六年

傳於橋大信於法中百六十六年 一傳於橋大信於法中百六十六年

傳於橋大信於法中百六十六年 一傳於橋大信於法中百六十六年

寶曆十二年六月

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

寶曆十二年

延和三年三月

三月十九日

延平北帖卷之

二十九 田一乘信信子大芝色田一十七

獻厚以久老子

十七 廿一 一玉果心大芝色陳六 十九

脫心淨堂信士

乃三十三

以上

女政八十四年

日本時世草紙卷之

平安 大江 宇治 山 櫻 若

看州人住世大云若初之可也蘇仙也胡之信學八口
大夫相工之也

以上

文政八乙酉年

日本時政軍運故府 平安 大江雄翰為著

佛本丸

石州人住除大夫善和可世松遊仙也願石浦哥最勝人口

大夫相上夕陽多 既宮

哥仙相上露金改 李筱

大夫高鉢應神助 為卷

大夫高鉢應神助 為卷

即今住石州

大夫湯淵

吾心既

大夫賦

科吟

日本與

大夫

安倍仲麻呂 日本詩歌重選

程遣唐使入唐慕唐不肯去勿姓名曰朝衡故唐人呼其是甄或昆
脚也嘗在九州作三笠山歌

日本昆脚以後篇 程條

日本昆脚游異境 南都

日本昆脚容異方 支河

日本昆脚龍海日 大教

即今唯存朝脚月清影依然御蓋秋 生駒

大正文庫

古今和歌集 卷之八 秘書品式 若家車 若城長傳 月出若

白月

飛揚尾監名 廿分

○三葦山頭日出光而影

三葦山頭日出光而影 去反

日本書紀 卷之八 神代卷 三葦山頭日出光而影 去反 日本書紀 卷之八 神代卷 三葦山頭日出光而影 去反

在原中將兼平

阿保親王 第五子也 故兼平在五中將 燈籠 阿保親王 第五子也 故兼平在五中將 燈籠 阿保親王 第五子也 故兼平在五中將 燈籠

○高安室中兼重八

高安室中兼重八

為憶風浪在相林生駒

大正文庫

相林中將
在公子全

左原開
美籍相江

○高安里有食人魚

○高安里有食人魚
據有高安字記迎壽我北極天吟四川自白
不
○杜若德遠香草色如君紅帶向玉環
何如杜若別頭珠服愛弟都
三五

杜若洲邊
客子衣

○燕子旋關到
八橋

三河水曲
八橋通

極服嚴或
桂千古風波何滅
在中部

莫見蒼
兮芳草色
莫掩旅服衣
玉環常山

杜若鴉
魚水玉環香
未啼

古蓮華將斷王孫不復來

八棉分杜若花入王孫殿

○行令直到碧山中踏秋蘿深何處道

○芙蓉五月知雙燕

○中郎駐馬欲覺雙燕歸

○雲是西京在

○朱舟無視

○中郎發還莊

○沙島近人無

○墨水白濁

○有燕飛

○也踐行

○自使二枝

○為是王孫

○洲上白鷗

○自看洲島

○榴沾那

○王孫不復

○王孫不可

○

○

○

○

○

○

○

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

卷之三

歐陽修著

歐陽文忠公集

卷之三

歐陽文忠公集

卷之三

歐陽文忠公集

卷之三

歐陽文忠公集

藤原藤房

藤原藤房為中納言，奉直取直得夫，上不於，彼有獻，彼為者，群臣皆賀，藤房獨不賀而諫，上不於，於知上不可諫，因無官，隱于北山云。

帝我藤原八門管，敬曰死親，為公。

極諫於不宮，慨然琴樹，鳴也。

歐陽文忠公集

欽定四庫全書

書

不

不

不

通

小名通名正元為國號於朝第五子幼雅家觀歷千鞍為山讓書于東元序述
累人殺其後後與元親朝歷共討平氏時平氏據于第一谷故姓乃冒陰察
雲不覺大敗之於六連通千八為義林連義之既戰於姓誤墜其所千之
乃戰為逐之得而輝信光職平六千糧酒朝廷賞之韓徐非遠使五位尉
兼伊羅守及東端五十餘能為號者所攝而不得入鎌倉乃起書以請契
完云

註

○訓

樂

西歷六十年庚子年

○曹公討孫權深其討

孫權令趙雲、黃權全軍下宛

孫權死知魚伏

孫權死知魚伏

孫權死知魚伏

孫權死知魚伏

征西漢將應氣專

元曆年中應到官

○孫權形弓學月流

戰鼓銀鑼聲聲可

○何須別草許完文

海島志卷之二十一 津島

○津島

○津島

○津島

○津島

○津島

○津島

○津島太郎

丹後美津人。嘗乘舟而釣。得一大龜。化為女郎。伴入于海。歷觀蓬萊。龍宮等之靈境。是為大婦。後復還。女與三神。曰御世再會。慎勿聞討。既而龍家子孫已亡。並無相識。願欲還。大家不護。心中大悔。願復見之。不能。遂復喪。老下。又傳。津島守。釣于信州。木曾漢邊。獲呼其地。曰慶堂。見床云。

津島志無其人。結。曰。

釣者皆水龍。伴。一。又。何。

玉匣。老木。腐。白。髮。曰。

選家七世子孫家

應知南島送仙王

浦島太郎釣卷尾魚釣得巨龜化作女九齡

白玉小童勝天淨

七世子孫僕何存

忽如男婦二面會白浪被波滿屋宇

仙人曾海共釣蟹列漁門王

○泉源拭乾仙人石

仙人林上瑞霞堆

石林夢覺兒改紅霞

一自仙翁垂釣後

自有地仙把釣竿

釣得仙人枕石眠覺來三島路茫茫

遺棄七世子孫

隨濟山人... 遺棄七世子孫

自本山人... 遺棄七世子孫

一目山... 遺棄七世子孫

不林亭... 遺棄七世子孫

山人林... 遺棄七世子孫

○... 遺棄七世子孫

狡小節

和州人... 狡小節... 大楚覆... 狡小節

小節仙人... 狡小節

小節仙人... 狡小節

小節仙人... 狡小節

小節仙人... 狡小節

狡小節... 狡小節

狡小節... 狡小節

一夜長橋壓石成

仙跡猶存遺履在

謝志仙人從荒山

謝志仙人從荒山

謝志仙人從荒山

謝志仙人從荒山

謝志仙人從荒山

謝志仙人從荒山

生駒仙

生駒仙人從荒山

生駒仙人從荒山

生駒仙人從荒山

生駒仙人從荒山

生駒仙人從荒山

一處是松閣高敞

仙館

仙館在松閣高敞

主陳山工遊八面

主陳山工遊八面

主陳山工遊八面

主陳山

蟬九

不知何許人隱于相振而世善和哥人善彈琵琶最妙家水洩泉四蟬九

一作仙九

人愛結輝輝結塚

調高琴水洩泉四歌妙伊在蓬阪詞

謝靈運詩水出泉源如注中流激石成潭

李益詩心跡與泉聲

八德潤物無私

一若心此

不味即有人自于辨疑信也善味善入善靈結也其變澤水也然理深矣

張氏

牡丹花老人

姓潘名尚物号夢春美京觀王之裔也以和昇世曾謀世丹贈人以為蛇妖大賞數百金歸牡丹老人性無拘束嗜酒狂逸出必騎牛以金飾其角以書姓於角上其書云僧若燕人後魏守攝州池田水石中藏有之亂遂移居于蘇州攝建天

泉州元自飲多士前有牡丹令有君云

春華於春華

謝靈運詩水出泉源如注中流激石成潭

李益詩心跡與泉聲

八德潤物無私

一若心此

一不在此則不在彼矣。又曰：此山一草一木，皆有其理。然則天地之間，無一物不有其理。此理之所在，即其性之所在。性即理，理即性。性理合一，則天地之間，無一物不有其性。此理之所在，即其性之所在。性即理，理即性。性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

仙聖之理，皆在性中。

性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

性理合一

源頭基

西宮元大臣高明之孫，官中納言。嘗云：願得身自然屋舍，而在幽居地。望月

見笑。

若無元道明顯，凡月延年壽。此章。

見笑。

卷之六

...

...

...

...

